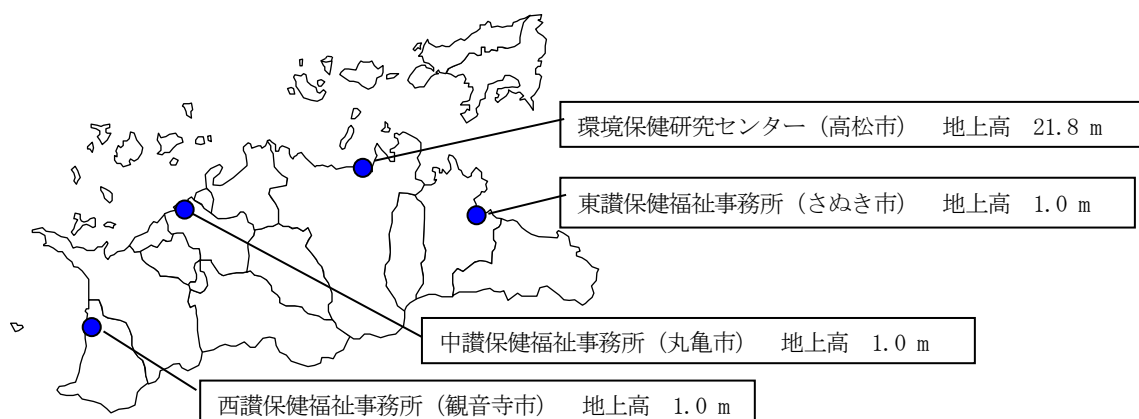


香川県内の放射線量等の測定結果（令和6年度まで）

1 大気中の放射線量

①モニタリングポストによる常時監視

大気中の放射線量は、県内4箇所のモニタリングポストで常時監視しています。平成23年度までは、環境保健研究センター1箇所で常時監視していました。



区 分	放射線量（マイクロシーベルト／時）											
	環境保健研究センター （高松市）			東讃保健福祉事務所 （さぬき市）			中讃保健福祉事務所 （丸亀市）			西讃保健福祉事務所 （観音寺市）		
	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大
平成12年度	0.054	0.049	0.085	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成13年度	0.055	0.053	0.093	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成14年度	0.056	0.051	0.078	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成15年度	0.056	0.051	0.093	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成16年度	0.059	0.054	0.088	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成17年度	0.060	0.055	0.096	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成18年度	0.062	0.056	0.092	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成19年度	0.060	0.054	0.094	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成20年度	0.054	0.050	0.076	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成21年度	0.053	0.051	0.077	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成22年度	0.053	0.051	0.085	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成23年度	0.055	0.050	0.088	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成24年度	0.055	0.053	0.091	0.076	0.072	0.098	0.056	0.051	0.091	0.056	0.052	0.091
平成25年度	0.055	0.051	0.081	0.076	0.072	0.103	0.055	0.052	0.100	0.056	0.052	0.076
平成26年度	0.053	0.050	0.074	0.076	0.071	0.103	0.055	0.052	0.085	0.056	0.053	0.081
平成27年度	0.053	0.051	0.076	0.076	0.072	0.099	0.055	0.052	0.093	0.056	0.040	0.083
平成28年度	0.053	0.050	0.122	0.075	0.069	0.105	0.055	0.052	0.095	0.056	0.047	0.094
平成29年度	0.053	0.050	0.079	0.075	0.072	0.095	0.055	0.052	0.091	0.056	0.047	0.084
平成30年度	0.053	0.050	0.075	0.075	0.070	0.095	0.056	0.052	0.080	0.056	0.051	0.077

区 分	放射線量 (マイクロシーベルト/時)											
	環境保健研究センター (高松市)			東讃保健福祉事務所 (さぬき市)			中讃保健福祉事務所 (丸亀市)			西讃保健福祉事務所 (観音寺市)		
	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大
令和 元年度	0.053	0.050	0.132	0.076	0.072	0.096	0.055	0.052	0.085	0.056	0.035	0.081
令和 2 年度	0.052	0.050	0.074	0.076	0.072	0.097	0.055	0.052	0.088	0.057	0.053	0.083
令和 3 年度	0.052	0.045	0.097	0.075	0.071	0.104	0.055	0.051	0.081	0.056	0.052	0.080
令和 4 年度	0.050	0.047	0.093	0.074	0.071	0.099	0.055	0.051	0.088	0.053	0.050	0.079
令和 5 年度	0.050	0.047	0.080	0.074	0.048	0.107	0.055	0.051	0.093	0.053	0.049	0.093
令和 6 年度	0.050	0.046	0.081	0.074	0.069	0.104	0.054	0.049	0.094	0.053	0.049	0.081

- (注) 1. 東讃保健福祉事務所での平均値が他の地点に比べ高い原因は、他の岩石に比べて自然放射線をやや多く放射する花崗岩を多く含む地質であることが影響していると考えられる。
2. 最大値の変動は、大気中に漂っている短寿命の天然の放射性物質が降雨により地表に集められたことによるものと考えられる。なお、環境保健研究センターの最大値の変動には、近隣工場で行われる放射線を用いた検査が影響している場合もあるが、一時的・限定的なものである。
3. 測定は空気吸収線量率 $\mu\text{Gy/h}$ (マイクログレイ毎時) ですが、表示は実効線量率 Sv/h (マイクロシーベルト毎時) を用いています。なお、 $1\mu\text{Gy/h}$ (マイクログレイ毎時) = $1\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト毎時) と換算しています。
4. 算出方法については、令和6年度以降は、1日毎の平均、最小、最大を用いて放射線量を算出しています。なお、平成12年度～令和5年度までの放射線量は10分値を用いて算出しています。

②サーベイメータによる補足調査

平成23年6月24日から12月28日までは、毎日、環境保健研究センターでサーベイメータを使用して空間放射線量を測定しました。また、平成23年7月から平成24年3月までの毎月、高松市を除く県内の各市町庁舎敷地内でサーベイメータを使用して空間放射線量を測定していました。

平成24年度からは、毎月、環境保健研究センターと小豆総合事務所でサーベイメータを使用して空間放射線量を測定しています。

○高松市（環境保健研究センター）での空間放射線量測定結果（地上高1.0m）

測定日 (※原則各日 10:00 測定)	放射線量 (マイクロシーベルト/時)		
	平均値	最小	最大
平成23年 6月 24日～12月 28日	0.060	0.051	0.069

○市町別測定結果(高松市以外は、各市町庁舎敷地内で測定)（地上高1.0m）

測定場所	測定年月日・放射線量 (マイクロシーベルト/時)								
	平成23年						平成24年		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高松市 (環境保健研究センター)							0.065	0.059	0.059
丸亀市役所	0.071	0.059	0.059	0.059	0.059	0.061	0.063	0.065	0.063
坂出市役所	0.074	0.057	0.059	0.065	0.057	0.063	0.065	0.063	0.063
善通寺市役所	0.061	0.059	0.067	0.063	0.065	0.069	0.073	0.065	0.063
観音寺市役所	0.057	0.057	0.057	0.063	0.061	0.059	0.063	0.061	0.063
さぬき市役所	0.059	0.057	0.065	0.059	0.063	0.061	0.063	0.065	0.069
東かがわ市役所	0.059	0.061	0.067	0.065	0.063	0.063	0.069	0.065	0.069
三豊市役所	0.059	0.059	0.061	0.059	0.057	0.059	0.055	0.057	0.061

土庄町役場	0.059	0.057	0.059	0.067	0.063	0.063	0.069	0.069	0.059
小豆島町役場	0.051	0.051	0.049	0.065	0.065	0.055	0.061	0.067	0.061
三木町役場	0.059	0.059	0.059	0.057	0.059	0.057	0.055	0.057	0.059
直島町役場	0.063	0.069	0.065	0.061	0.059	0.061	0.063	0.071	0.069
宇多津町役場	0.067	0.049	0.049	0.051	0.063	0.057	0.059	0.055	0.057
綾川町役場	0.057	0.055	0.051	0.057	0.055	0.051	0.061	0.059	0.061
琴平町役場	0.063	0.063	0.067	0.065	0.065	0.069	0.071	0.063	0.065
多度津町役場	0.055	0.049	0.049	0.045	0.053	0.045	0.051	0.049	0.051
まんのう町役場	0.059	0.061	0.065	0.063	0.063	0.063	0.063	0.065	0.059

○高松市（環境保健研究センター）及び小豆総合事務所での測定結果（地上高 1.0m）

区分	放射線量（マイクロシーベルト/時）					
	環境保健研究センター			小豆総合事務所		
	平均	最小	最大	平均	最小	最大
平成 24 年度	0.061	0.059	0.064	0.060	0.052	0.064
平成 25 年度	0.062	0.060	0.064	0.062	0.056	0.064
平成 26 年度	0.059	0.056	0.061	0.058	0.056	0.062
平成 27 年度	0.062	0.059	0.065	0.059	0.053	0.064
平成 28 年度	0.061	0.057	0.063	0.063	0.060	0.066
平成 29 年度	0.060	0.055	0.061	0.060	0.054	0.076
平成 30 年度	0.060	0.056	0.065	0.061	0.056	0.068
令和 元年度	0.063	0.059	0.066	0.063	0.059	0.073
令和 2 年度	0.061	0.055	0.065	0.069	0.063	0.079
令和 3 年度	0.058	0.053	0.061	0.072	0.065	0.082
令和 4 年度	0.058	0.055	0.063	0.066	0.060	0.071
令和 5 年度	0.058	0.050	0.063	0.067	0.061	0.074
令和 6 年度	－	－	－	0.068	0.062	0.074

*高松市（環境保健研究センター）での測定は、令和5年度で終了しました。

2 大気浮遊じん

毎年、4月～6月、7月～9月、10月～12月、1月～3月のそれぞれ3箇月間で延べ6日間、環境保健研究センター（高松市）で採取した大気浮遊じん（大気中に浮遊している塵）について、放射性物質を測定しています。（N.Dは「検出せず」）

○東日本大震災前の測定データ （ベクレル/m³）

測定年度	放射性セシウム等	
	最小	最大
平成 12 年度	N. D	N. D
平成 13 年度	N. D	N. D
平成 14 年度	N. D	N. D
平成 15 年度	N. D	N. D
平成 16 年度	N. D	N. D
平成 17 年度	N. D	N. D
平成 18 年度	N. D	N. D
平成 19 年度	N. D	N. D
平成 20 年度	N. D	N. D
平成 21 年度	N. D	N. D
平成 22 年度*	N. D	N. D

*平成 22 年度については、1 月～3 月分は、3 月 11 日以前に採取

○東日本大震災後の測定データ （ベクレル/m³）

採取期間	セシウム－134	セシウム－137	ヨウ素－131
平成 23 年 4 月～ 6 月分	0. 00025	0. 00023	N. D
平成 23 年 7 月～ 9 月分	N. D	N. D	N. D
平成 23 年 10 月～12 月分	N. D	N. D	N. D
平成 24 年 1 月～ 3 月分	N. D	N. D	N. D
平成 24 年度	N. D	N. D	N. D
平成 25 年度	N. D	N. D	N. D
平成 26 年度	N. D	N. D	N. D
平成 27 年度	N. D	N. D	N. D
平成 28 年度	N. D	N. D	N. D
平成 29 年度	N. D	N. D	N. D
平成 30 年度	N. D	N. D	N. D
令和 元年度	N. D	N. D	N. D
令和 2 年度	N. D	N. D	N. D
令和 3 年度	N. D	N. D	N. D
令和 4 年度	N. D	N. D	N. D
令和 5 年度	N. D	N. D	N. D
令和 6 年度	N. D	N. D	N. D

3 降下物

① 1 箇月間の降下物

降下物については、環境保健研究センター（高松市）で 1 箇月間に蓄積されたものについて測定しています。（N.D は「検出せず」）

○東日本大震災前の測定データ

（メガベクレル/km²）

測定年度	放射性セシウム等	
	最小	最大
平成 12 年度	N. D	N. D
平成 13 年度	N. D	N. D
平成 14 年度	N. D	N. D
平成 15 年度	N. D	N. D
平成 16 年度	N. D	N. D
平成 17 年度	N. D	N. D
平成 18 年度	N. D	N. D
平成 19 年度	N. D	N. D
平成 20 年度	N. D	N. D
平成 21 年度	N. D	N. D
平成 22 年度(平成 23 年 2 月分まで)	N. D	N. D

○東日本大震災後の測定結果（12 回/年）

（メガベクレル/km²）

採取期間	セシウムー 134	セシウムー 137	ヨウ素ー 131
平成 23 年 3 月分	0.086	0.057	1.5
4 月分	5.4	5.1	11
5 月分	0.24	0.29	N. D
6 月分	N. D	0.075	N. D
7 月分	N. D	0.050	N. D
平成 23 年 8 月分～ 24 年 3 月分	N. D	N. D	N. D
平成 24 年度	N. D	N. D	N. D
平成 25 年度	N. D	N. D	N. D
平成 26 年度	N. D	N. D	N. D
平成 27 年度	N. D	N. D	N. D
平成 28 年度	N. D	N. D	N. D
平成 29 年度	N. D	N. D	N. D
平成 30 年度	N. D	N. D	N. D
令和 元年度	N. D	N. D	N. D
令和 2 年度	N. D	N. D	N. D
令和 3 年度	N. D	N. D	N. D
令和 4 年度	N. D	N. D	N. D

採取期間	セシウムー 134	セシウムー 137	ヨウ素ー 131
令和 5 年度	N. D	N. D	N. D
令和 6 年度	N. D	N. D	N. D

② 1 日の降下物

東日本大震災後は、平成 23 年 3 月 18 日から 12 月 27 日まで、1 箇月分の降下物に加えて、1 日分の降下物についても環境保健研究センター（高松市）で測定していましたが、すべて検出限界以下でした。（N. D は「検出せず」）

(メガベクレル/km ²)			
採取期間	セシウムー134	セシウムー137	ヨウ素ー131
平成 23 年 3 月 18 日 ～ 12 月 27 日	N. D	N. D	N. D

4 上水（蛇口水）

① 上水 100 リットル中の放射性セシウム等の濃度

毎年 1 回、環境保健研究センター（高松市）で蛇口から上水 100 リットルを採取し濃縮して放射性物質を測定しています。（N. D は「検出せず」）

(ミリベクレル/l)	
測定年度	放射性セシウム等
平成 12 年度 ～ 平成 22 年度	N. D
平成 23 年度	N. D
平成 24 年度	N. D
平成 25 年度	N. D
平成 26 年度	N. D
平成 27 年度	N. D
平成 28 年度	N. D
平成 29 年度	N. D
平成 30 年度	N. D
令和 元年度	N. D
令和 2 年度	N. D
令和 3 年度	N. D
令和 4 年度	N. D
令和 5 年度	N. D
令和 6 年度	N. D

② 毎日（2 リットル）の上水中の放射性セシウム等の濃度

東日本大震災後は、毎年 1 回の測定に加え、平成 23 年 3 月 18 日から 12 月 27 日まで、毎日上水を 2 リットル採取し、測定していましたが、放射性セシウム等が検出されたことはありませんでした。（N. D は「検出せず」）

(ベクレル/ℓ)

採取期間	セシウム-134	セシウム-137	ヨウ素-131
平成 23 年 3 月 18 日 ～ 12 月 27 日	N. D	N. D	N. D

③ 3 箇月間の上水中の放射性セシウム等の濃度

平成 24 年 1 月から平成 28 年 3 月まで、環境保健研究センターで土日祝日を除く毎日、蛇口から水道水を 1.5 リットル採水し、3 箇月毎に濃縮して放射性物質を測定していましたが、放射性セシウム等が検出されたことはありませんでした。(N. D は「検出せず」)

(ミリベクレル/ℓ)

採取期間	セシウム-134	セシウム-137	ヨウ素-131
平成 24 年 1 月～ 3 月分	N. D	N. D	N. D
平成 24 年度	N. D	N. D	N. D
平成 25 年度	N. D	N. D	N. D
平成 26 年度	N. D	N. D	N. D
平成 27 年度	N. D	N. D	N. D

5 土壌（未耕地）

坂出市内の未耕地で、毎年 1 回、上層(0～5cm)、下層(5～20cm)の土壌を採取し、放射性物質を測定しています。

ごく微量の放射性セシウムが上層を中心に検出されていますが、東日本大震災前後で顕著な差は認められていません。(N. D は「検出せず」)

○セシウム-137

(ベクレル/kg)

採取期間	上層(0～5cm)	下層(5～20cm)
平成 18 年度	8.1	N. D
平成 19 年度	9.7	1.6
平成 20 年度	16	3.2
平成 21 年度	7.4	2.1
平成 22 年度	8.0	N. D
平成 23 年度	10	N. D
平成 24 年度	8.3	N. D
平成 25 年度	12	2.4
平成 26 年度	6.1	1.1
平成 27 年度	6.2	N. D
平成 28 年度	8.5	1.6
平成 29 年度	7.1	1.5
平成 30 年度	7.0	1.9
令和 元年度	7.1	N. D
令和 2 年度	2.1	N. D

令和 3年度	5.3	1.9
令和 4年度	4.0	N.D
令和 5年度	2.2	1.0
令和 6年度	6.5	2.5

6 農・畜・水産物(精米、野菜、牛乳、鯛)

毎年1回、県内産の精米、大根、ホウレンソウ、牛乳、鯛について、検出精度を高めた方法により、ごく微量の放射性物質を測定しています。

カレイ、ホウレンソウでセシウム-137が検出されている年がありますが、ごく微量（一般食品の基準値(100Bq/kg)の1/1000以下）であり、健康への影響はありません。(N.Dは「検出せず」)

○セシウム-137

(牛乳はBq/ℓ、他はBq/kg)

区分	精米	ダイコン	ホウレンソウ	牛乳	カレイ
平成 18 年度	N.D	N.D	N.D	N.D	0.056
平成 19 年度	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
平成 20 年度	N.D	N.D	N.D	N.D	0.063
平成 21 年度	N.D	N.D	N.D	N.D	0.051
平成 22 年度	N.D	N.D	N.D	N.D	0.054
平成 23 年度	N.D	N.D	0.037	N.D	0.055
平成 24 年度	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
平成 25 年度	N.D	N.D	N.D	N.D	0.070
平成 26 年度	N.D	N.D	N.D	N.D	0.084
平成 27 年度	N.D	N.D	N.D	N.D	0.069
平成 28 年度	N.D	N.D	N.D	N.D	0.088
平成 29 年度	N.D	N.D	N.D	N.D	0.072
平成 30 年度	N.D	N.D	N.D	N.D	0.080
令和 元年度	N.D	N.D	N.D	N.D	0.070
令和 2 年度	N.D	N.D	N.D	N.D	0.075
令和 3 年度	N.D	N.D	N.D	N.D	0.051
令和 4 年度	N.D	N.D	N.D	N.D	0.065
令和 5 年度	N.D	N.D	N.D	N.D	0.074
令和 6 年度	N.D	N.D	N.D	N.D	0.065

*カレイについては、令和5年度で測定を終了し、令和6年度以降は鯛を測定します。

(参考)

○測定結果

大気中の放射線量では、次のとおり測定値を放射線量に換算しています。

放射線量(マイクロシーベルト/時)＝空間放射線量率(ナノグレイ/時)÷1000×換算係数(1)

○ゲルマニウム半導体検出器による測定では、測定条件により検出限界(N.Dの値)が変動します。

○放射線の単位の意味

シーベルト (Sv) : 放射線が人体に与える影響を表す単位
グレイ (Gy) : 放射線から受けるエネルギー量を表す単位
ベクレル (Bq) : 放射線を出す能力である放射能の強さを表す単位
マイクロ (μ) : 100万分の1 (10^{-6})
ナノ (n) : 10億分の1 (10^{-9})
メガ (M) : 100万 (10^6)